

令和5年6月30日

令和5年度第3回教育委員会定例会会議録

鹿児島県教育委員会

令和5年度第3回教育委員会定例会会議録

日時 令和5年6月30日（金）
14時00分～16時00分

場所 教育委員会室

出席者
地頭所教育長
島津委員
原之園委員
堀江委員
馬場委員
桶谷委員

（事務局職員）

末吉 副 教 育 長
黒木 教育次長兼生徒指導総括監
内村 総務 福利 課 長
水島 義務 教育 課 長
紺屋 高 校 教 育 課 長
森田 高 校 教 育 課 参 事
内園 高校教育課全国高等学校総合文化祭推進室長
中村 社 会 教 育 課 長
西小野 文 化 財 課 長
泊 総務 福利 課 企 画 監
波之平 総務 福利 課 長 補 佐

議 決 事 項

| 件 名 | 提 案 理 由 | 審議の状況 | 採決の次第 |
|-------------------------------|--|--------|-------|
| 議案第1号 鹿児島県産業教育審議会委員の任命について | 鹿児島県産業教育審議会委員の任期満了に伴い、次期の委員を任命しようとするものである。 | 特記事項なし | 決 定 |
| 議案第2号 鹿児島県社会教育委員の委嘱について | 鹿児島県社会教育委員の辞任に伴い、その後任を委嘱しようとするものである。 | 特記事項なし | 決 定 |
| 議案第3号 鹿児島県立博物館協議会委員の任命について | 鹿児島県立博物館協議会委員の任期満了に伴い、次期の委員を任命しようとするものである。 | 特記事項なし | 決 定 |

会 議 要 旨

1 開会

2 会議の公開等について

議案第1号から第3号及びその他(6)並びにその他(7)については、非公開で審議する旨教育長から発議があり、全会一致で議決された。

3 令和5年度第2回教育委員会定例会会議録について

令和5年度第2回教育委員会定例会の会議録について、承認する旨、教育長から発議があり、全会一致で議決された。

4 教育長報告

報告第1号 予算議案の作成に関する知事への意見申出について

— 6月補正予算の作成に関する知事への意見申出について、その内容及び教育長の臨時代理により差し支えない旨回答したことについて —

(総務福利課長が資料に沿って説明)

(質疑)

(島津委員) 県立学校給食費等支援事業について、基本的には年度末までの1年間分を補助する事業ということか。

また、国宝霧島神宮防災設備設置補助事業について、現状・課題・背景に、国の補助(事業費1/2)と記載があるが、令和5年度予算額には、国庫補助75%と記載がある。このことについて説明していただきたい。

(総務福利課長) 県立学校給食費については、3月末までの給食費の物価高騰分の補助となる。

(文化財課長) 国の補助については、原則1/2であるが、そのほかに、国宝の事業であるので15%、事業規模指数の関係で10%加算され、合計で75%となっている。

(原之園委員) 県立学校給食費の増額分補助について、例えば特別支援学校、楠隼中学校等への補助か。市町村立学校については、各市町村での対応となるのか。

(総務福利課長) 給食費については、特別支援学校16校と楠隼中学校、開陽高校定時制が給食費の補助対象、鹿児島盲学校、聾学校、鹿児島特別支援学校、鹿児島高等特別支援学校、串木野特別支援学校が舎食費の補助対象となる。

交付金の活用となるので、本件は県立学校に対しての補助となる。市町村立学校については、学校設置者判断となり、必要があれば対策を講じている。

(教育長) 異議がないので、報告第1号は了解いただいたものとする。

5 その他

(1) 郷土愛を育み、未来の人材を育成する地域協働プロジェクトについて

- － 郷土愛を育み、未来の人材を育成する地域協働プロジェクトの概要等について －

〈高校教育課長が資料に沿って説明〉

〈質疑〉

- (島津委員) この地域協働プロジェクトは、3年間の事業で今年度が最終年度であると思うが、対象の学校は、単年度ごとに決定しているのか、継続している学校もあるのか。
それぞれすばらしい取組であるので、活用され、地域との連携が一層深まることを期待したいが、地域側からすると、できるだけ長く続けてもらった方が良く思う。
また、地域、関係企業、大学と上手くコーディネートできる窓口的な役割をする人材であるコーディネーターが必要になってくるのではないかと思うが、人材育成について教えていただきたい。
- (高校教育課長) 基本的には単年度で募集しているが、今年度は颯娃高校と福山高校が2年目の指定となる。申し込みが5校あり、指定しなかった喜界高校については、これまで2年間指定しており、十分自立できる状態だと判断した。
単発で終わらせるのではなく、事業をきっかけに関係性を作り、探究学習を深めながら、地域に貢献していくことを目的としているので、各学校に事業を継続できるようお願いしている。
また、現在、校外にコーディネーターを置いているのは福山高校であり、地域未来構想支援員として、外部の方に入ってもらっているようである。他の学校については、校内の教員が外部との調整をしているが、地域の方に入ってもらい、人材育成に生かしていくことを目指している。
- (島津委員) 教員にノウハウを蓄積して、広げていくという取組なのか。
- (高校教育課長) これまでも地域協働プロジェクトは事業名を変えながら継続している事業であるので、地域と連携する形はできてきていると思う。人事異動によらず、形として学校に探究を残していくことを大事にしている。これは、学習指導要領が改正された後の動きであり、基本的にはこれまで積み上げてきた地域協働のやり方の中に、生徒の探究的な学習を盛り込んでおり、学校訪問等につなげていきたい。
- (島津委員) 人脈が非常に重要であると思うが、どのように考えているか。
- (高校教育課長) 高校教育課では、各学校がどれだけ人脈を広げたかは把握できていないが、コンソーシアムを構成するにあたり、協力をいただけているということは、地域にも御理解をいただいているのではな

いかと考えている。

(原之園委員) それぞれの学校の取組内容が記載されているが、穎娃高校は、お茶を栽培する作業等を通して地域と連携・貢献するということか。

(高校教育課長) 穎娃高校については、お茶栽培の過程を追うだけではなく、商品開発や就業体験を含めて、地元の茶業をどのように盛り上げていけるかという観点で、地域を発展させることについて研究していく。

(桶谷委員) 活動の成果の情報共有が大切だと思う。報告書をHPで掲載したり、校内での成果発表をしたりすると思うが、発表している動画を他の学校に共有していただきたい。

(高校教育課長) 写真等を報告書に載せるが、最終的にプレゼンテーションをどれぐらいできるようになったかという視点も大事だと感じているので、前向きに検討していきたい。

〈質疑終了〉

(2) 第47回全国高等学校総合文化祭(2023かごしま総文) 活動状況について
— 第47回全国高等学校総合文化祭(2023かごしま総文) の活動状況について —

〈高校教育課全国高等学校総合文化祭推進室長が資料に沿って説明〉

〈質疑〉

(島津委員) 経済同友会主催の交流人口創出委員会に参加したが、しっかりと説明していてわかりやすかった。

今後のスケジュールについて、当日まで何か活動があれば教えていただきたい。また、総文祭開会式の前夜祭はないのか。

(総文祭室長) 大きなPRイベントはないが、7月2日にある国体の100日前イベントで、生徒と一緒にPRをする予定である。また、24日には3か国の交流で生徒たちが鹿児島に来て、25日から国際交流が始まる予定である。それから、西原商会アリーナでリハーサルが繰り返され、28日の前日には、本番さながらのリハーサルを行う。そして、29日が総合開会式、パレードとなる。前夜祭は予定していない。

(堀江委員) 総文祭をかなり周知しているとは思いますが、県内の中学生、高校生に対して、しっかりと案内していただきたい。

(総文祭室長) 高校については県立高校に、中学校については、小学校と中学校分を、市町村教育委員会に御案内している。

〈質疑終了〉

(3) 第5次鹿児島県子ども読書活動推進計画及び鹿児島県視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画の策定について

ー 第5次鹿児島県子ども読書活動推進計画及び鹿児島県視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画の策定の概要等 ー

〈社会教育課長が資料に沿って説明〉

〈質疑〉

(島津委員) 第5次鹿児島県子ども読書活動推進計画について、本県は読書活動が盛んではあるが、デジタル社会になればなるほど、本を読む機会が少なくなる傾向があるので、さらに推進していただきたい。読むだけではなく、読解力、理解力を高めることが重要であり、特に高校生は、読書量が減る傾向があるので、どのように高めるかについても、ぜひ取り組んでいただきたい。

また、鹿児島県読書バリアフリー計画について、読書環境の整備が謳われているが、図書館の中で大活字本や点字本等がどの程度準備されているのか教えていただきたい。また、全国比較があれば教えていただきたい。

(社会教育課長) 障害者等へのサービスの状況について、県立図書館では、障害者サービスを令和3年度から開始している。令和4年度の時点における点字図書を利用する障害者の登録者数は、わずか4名である。そのため、利用促進の周知が課題となっている。

県立図書館には、アクセシブルな書籍、いわゆる視覚障害者が利用しやすい書籍や電子書籍は、大活字本が3,167冊、LLブックが42冊、点字資料が82冊、布の絵本が34冊、録音図書が211枚あり、これらの電子書籍の整備についても検討していく必要がある。

全国比については、各県の状況を把握していないので比較できない。また、全書籍に対する視覚障害者等への配慮の冊数の割合については、県立図書館は、令和4年度末で92万2,594冊のうち3,536冊で、0.3%の割合である。書籍の充実や関係団体との連携が必要であるので、この計画に含まれるように検討したい。

(馬場委員) 子ども読書活動推進計画は、「子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできないもの」と目的に記載があるが、対象には、視覚障害者の子どもも含まれているのか。

また、読書バリアフリー計画については、子どもと大人を区別するのか。

(社会教育課長) 子ども読書活動推進計画については、基本的には乳幼児から高校生までもを対象とした計画であり、読書バリアフリー計画については、視覚障害者、発達障害者、肢体不自由、その他様々な障害によって、書籍を読むことが困難な方に対する読書の支援になり、子どもから高齢者までを対象としている。委員には特別支援学校の先生にも入っていただいているので、意見をいただきながら、

計画の中に含めて参りたい。

- (原之園委員) 親子読書や読み聞かせ等の取組を、学校や家庭、公民館、地域と連携し、県民総ぐるみの運動にしていきたい。
また、ゲームと読書の関係についても議論していきたい。

〈質疑終了〉

(4) 旧考古資料館（旧興業館）へのブランドショップ移転について

－ 旧考古資料館（旧興業館）へのブランドショップ移転の概要について －

〈文化財課長が資料に沿って説明〉

〈質疑〉

- (島津委員) 旧考古資料館について、ブランドショップの移転先として、旧考古資料館がふさわしいということだが、8－6ページの保存活用計画では、第5章に「建造物の価値を保存し、その魅力を発信するための公開」とあり、「幅広い主体にアイデアを求め、同館の歴史や周辺環境にマッチする企画や催事を実施することで、同館の歴史的・建築的価値や魅力を県民に体感してもらおう。」とある。この幅広い主体にアイデアを求めるということは、ブランドショップ以外についても意見を求めている必要があると思う。例えば、2階で県指定の文化財等を紹介するコーナーやカフェを作り、より多くの方が利用できるようにするのが良いと思う。
- (文化財課長) パブリックコメントや懇話会などでどのように有効的な活用が図られるか、国登録有形文化財としてのあり方、保存活用計画との整合性も図りながら、広く意見を聞いていきたいと考えている。
- (原之園委員) 8－5ページの内容は概要だが、提言書を見ると、利用方法としては、文化ゾーンをめぐる観光の拠点や歴史、貴重な資料を保存する場所、屋台村的な施設、ウォーキングのステーション等様々な意見が記載されている。提言書も参考にぜひ県民の方が集うような施設にしていきたい。
- (文化財課長) 長い期間かけて検討し、まとめられた提言と保存活用計画であるので、整合性を図りながら今後どのような形で活用が図れるかを検討して参りたい。
- (馬場委員) 正面部分は鹿児島市の土地ではないかと思うが、鹿児島市と協議し、このまま入口とするのか。
- (文化財課長) 旧考古資料館の時代から、このような配置になっているので、市有地を通過して中に入ることになる。また、看板や案内版も設置しており、今後どのような動線にするかを鹿児島市と協議していくことになると考えている。

〈質疑終了〉

(5) 馬毛島の埋蔵文化財の発掘調査について
－ 馬毛島の埋蔵文化財の発掘調査について －

〈文化財課長が資料に沿って説明〉

〈質疑〉

(島津委員) 記録保存はやむを得ないと思う。石器の年代は特定されているのか。

(文化財課長) まだ分析している最中であり、旧石器時代のうち、1万年から3万年前ぐらいの幅がある中で、どの年代あたりなのかを調査している。

〈質疑終了〉

6 議案

議案第1号 鹿児島県産業教育審議会委員の任命について
(非公開)

議案第2号 鹿児島県社会教育委員の委嘱について
(非公開)

議案第3号 鹿児島県立博物館協議会委員の任命について
(非公開)

7 その他

その他(6) 義務教育諸学校等における令和6年度使用教科書の採択事務について
(非公開)

その他(7) スクール・ミッションについて
(非公開)

8 閉会